

応募フォーム_1.概要（1ページ以内）



応募活動名	大雪山国立公園の山岳トイレ問題解決に向けた取り組み			
候補者	候補者名	ヤマノトイレヲカンガエルカイ		
		山のトイレを考える会		
	活動地域	北海道・大雪山国立公園	活動開始年（西暦）	2000年
他薦の場合	推薦者名	なし		

<p>応募活動の概要・実績</p> <p>登山者によるし尿汚染、景観の毀損、貴重な高山植物の踏み付けを無くするために、啓発活動として登山者に自分の排泄物を持ち帰る携帯トイレの使用を呼びかけてきた。現在では、登山者による携帯トイレの持参率は90%以上となってきた。携帯トイレを使用し易くする為に、官民協力して携帯トイレブース設置の機運を醸成し、複数の場所に設置を実現した。汚物やティッシュの散乱は大幅に減少し、植生も回復してきた。</p> <p>活動のきっかけ</p> <p>トイレの無い大雪山国立公園の美瑛富士避難小屋やトムラウシ山の南沼野営指定地は、登山者の排泄による汚物やティッシュの散乱、高山植物の踏み付けによる裸地の拡大など、目を覆う惨状だった。そのことを何とか改善したいとの思いで活動を始めた。</p> <p>活動の特徴・アピールポイント</p> <p>普及啓発活動として、山のトイレマップや山のトイレマナーガイド作成し、登山者にティッシュの持ち帰りや携帯トイレの使用を呼びかけた。また、携帯トイレの使用環境を整備するために、行政（環境省や北海道）に携帯トイレブース設置を要請し、設置後の維持管理を登山者側で行う仕組みを構築した。また携帯トイレ回収ボックスの設置を行政（市町）に担ってもらった。山岳環境の改善を官民協働で行うことを実現してきた。</p>	<p>応募活動を象徴する写真（1点）</p> 
---	---

<p>応募部門</p> <p>* 該当部門に印を入れてください。（複数可）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 【保護実践部門】市民・学生・企業・行政・専門家などがそれぞれの立場と特性を活かし、具体的な自然保護の実績をあげた活動や研究。 <input type="checkbox"/> 【教育普及部門】自然観察をはじめ、広く自然保護・生物多様性保全を目的とした教育・普及活動。 <input type="checkbox"/> 【子ども・学生部門】小学生から高校生まで、子どもが主体的に取り組んだ活動・研究。
---	---

応募フォーム_3.活動の詳細（2枚以内）



活動の詳細を、2枚以内で自由にご紹介ください。下記の選考ポイントをふまえて、特徴や実績をできるだけ具体的にお書きください。イベントや活動の規模については、日数や参加人数などもできるだけ具体的にお書きください。活動年は西暦でお願いいたします。活動のようすがわかる写真等も入れてください。

<選考ポイント> 地域の自然の特性に根ざした活動／継続することの価値や意義がわかる活動／新しい技術やアイデア、枠組みを活かした活動／多様な主体の連携や協働のある活動

1. 啓発活動

- ・全道一斉山のトイレデーと称した期間に、啓発ツールの山のトイレマップ、山のマナーガイドを18年間に亘り登山者に配布した。
- ・2019年から大雪山麓の宿泊施設、ロープウェイ駅、ビジターセンター等にトイレマップを配備。毎年約10,000部を配布。

2. 山岳団体と行政との協働作業の実施

- ・美瑛富士避難小屋の携帯トイレブース設置は行政（環境省）と山岳団体が協定書を結んだ協働活動で実現した。山岳9団体は10年間に亘り美瑛富士トイレブース点検・清掃を継続実施。
- ・美瑛富士での活動の成果は、ティッシュ・汚物回収数を指標に評価ができる。2015年から2023年迄の9年間で激減して大変きれいになっている。

3. 携帯トイレの利用環境づくり

- ・携帯トイレを利用し易い環境整備を行政（環境省や北海道）へ要請し、携帯トイレブース設置が2箇所（トムラウシ南沼と美瑛富士）で実現した。使用済み携帯トイレの回収ボックスを登山口へ設置し回収処分（市町）する仕組みも整ってきた。



2004年美瑛富士
避難小屋清掃登山



2003年山のトイレデー



日本百名山トムラウシ山
野営地のティッシュ散乱



山のトイレマップ

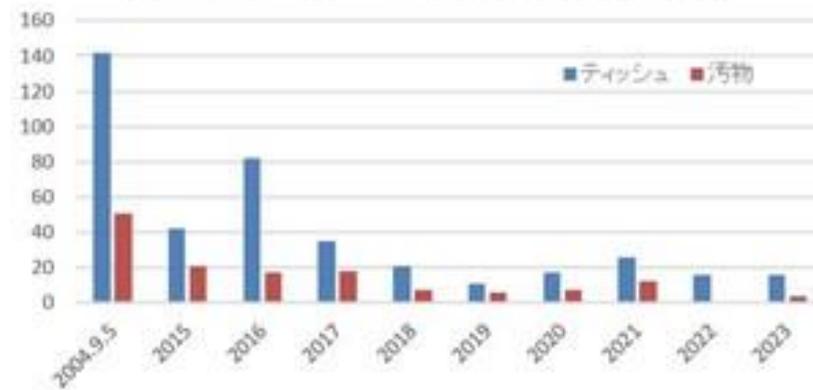


マナーガイド



山のトイレデーでの
啓発ツールの配布

美瑛富士ティッシュ・汚物回収数年度推移



応募フォーム_3.活動の詳細（2枚以内）

4. 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言に参加

- ・2017年7月、行政（環境省・道市町）、山岳団体、自然保護団体等の19団体が、大雪山国立公園では携帯トイレを使用・普及することの宣言を行った。
- ・関連して大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設立を提唱して構成員として参加。行政、研究者（大学）、山岳関係者、事業者等と協議の場を持ち改善に向け話し合っている。



大雪森のガーデン（上川町）での発表式



美瑛富士避難小屋横に設置された携帯トイレブース



登山口に設置された携帯トイレ回収ボックス。16の主要登山口に13か所設置された

5. 情報発信

- ・山岳関係者、行政、一般市民が一堂に会して山のトイレ問題について意見交換する山のトイレフォーラムを毎年1回、札幌で開催。2024年で25回となった。
- ・フォーラムでは北海道のみならず全国のトイレ問題の情報を資料集に寄稿してもらい、掲載発信している。その内容は過去のもの全て公開し閲覧できる。
<http://yamatoilet.jp/mtclean/forum.htm>



山のトイレフォーラムは毎年開催している



山のトイレフォーラム資料集